

2024 年 7 月 29 日

関係各位

株式会社パテント・リザルト

【電気機器】他社牽制力ランキング 2023

トップ 3 はパナソニック、三菱電機、東芝

弊社はこのほど「電気機器業界」の特許を対象に、2023 年の特許審査過程において他社特許への拒絶理由として引用された特許件数を企業別※に集計した「電気機器業界他社牽制力ランキング 2023」をまとめました。

この集計により、直近の技術開発において競合他社が権利化する上で、阻害要因となる先行技術を多数保有している先進的な企業が明らかになります。

集計の結果、2023 年に最も引用された企業は、1 位 **パナソニックホールディングス**、2 位 **三菱電機**、3 位 **東芝**となりました。

【電気機器業界 他社牽制力ランキング 2023 上位 10 社】

順位	企業名	引用された特許数
1位	パナソニックホールディングス	10,733
2位	三菱電機	6,048
3位	東芝	5,585
4位	日立製作所	5,004
5位	ソニーグループ	4,068
6位	シャープ	3,672
7位	富士通	3,132
8位	N E C	2,605
9位	三洋電機	1,822
10位	京セラ	1,555

※ 当ランキングは、企業グループを考慮した名寄せ処理を用いて算出しています。

【ランキングの集計対象について】

日本特許庁に特許出願され、2023 年 12 月までに公開された全特許のうち、2023 年 1 月～12 月末の期間に拒絶理由（拒絶理由通知または拒絶査定）として引用された特許を対象に、抽出・集計を行っています。

また本ランキングでは、権利移転を反映した集計を行っています。2024 年 5 月時点で権利を保有している企業の名義でランキングしているため、出願時と企業名が異なる可能性があります。

なお各企業の業種につきましては、総務省の日本標準産業分類等を参考に分類しています。

1位 **パナソニックホールディングス**の最も引用された特許は「消費電力を抑えて快適な空調制御を行うことができる空調制御方法」に関する技術で、三菱電機や富士通ゼネラルなどの計9件の審査過程で引用されています。このほかには「銅複合酸化チタン分散液」に関する技術が引用された件数の多い特許として挙げられ、イビデンなどの計8件の拒絶理由として引用されています。

2023年に、パナソニックホールディングスの特許によって影響を受けた件数が最も多い企業は三菱電機(448件)、次いでキヤノン(237件)となっています。

2位 **三菱電機**の最も引用された特許は「電子式電力量計」に関する技術で、三洋物産の計22件の審査過程で引用されています。このほか「発光素子実装基板」に関する技術が引用された件数の多い特許として挙げられ、大一商会の計9件の拒絶理由として引用されています。

2023年に、三菱電機の特許によって影響を受けた件数が最も多い企業はパナソニックホールディングス(329件)、次いでダイキン工業(203件)です。

3位 **東芝**の最も引用された特許は「X線検出器」に関する技術で、ミネベアミツミの「ひずみゲージ」関連特許など計26件の審査過程において拒絶理由として引用されています。

2023年に、東芝の特許により影響を受けた件数が最も多い企業は三菱電機(198件)、次いでパナソニックホールディングス(175件)となっています。

4位 **日立製作所**は「機械学習装置」、5位 **ソニーグループ**は「自動運転や半自動運転を行う移動体の運転を制御する装置」が、最も引用された特許として挙げられます。

* * *

また弊社では、ランキングデータを下記の通り販売しています。

【電気機器業界 他社牽制力ランキング 2023データ】

▶納品形態：以下のデータを収録したエクセルファイルをメールで御納品※

(※データー式を収録したCD-Rでの御納品をご希望の場合はご相談ください)

- ・ランキング トップ50社：本業界の被引用件数上位50社のランキング
- ・被引用件数 トップ100件：本業界の被引用件数上位100特許、及び引用先の特許との対応

▶価格：50,000円(税抜)

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社パテント・リザルト 事業本部 営業グループ

URL : <https://www.patentresult.co.jp/>

e-mail : info@patentresult.co.jp